名なパインバレーゴルフクラブでありました。聞きしに勝る難コースでティからフェアウエーまでの距離は遠く、打った球がどれもラフに落ちる、そのラフが深くなかなか出せない、散々な目にあった。これも英語での会話でしかも長びいたのでくたびれていたためだったと記憶しております。

広野の話に戻りますが小野、大屋両君と私の三人が、りで梶山君とよくやったものですが吾々の方が負け越していたと思います。

ある日十七番ホールで小野君の打った球がピンにくっつきバーディーが出て吾々が勝ち、梶山君がプンプンでしたがその翌年の二月仝君が他界しそれが四人揃ってのプレーの最後となりました。昭和四十二年のことです。只今では小野、大屋両君も無く私一人淋しいことです。

昭和四十五年神戸に引越すこととなり会員権は倅に譲りました。またいつも一緒にプレーした連中が送別会をしてくれました。当日は私としては上出来でワンハーフ廻りましたがどれも49であがりました。それ以後そんなスコアがでません。霞ケ関はとてもよいクラブでいつもよい気持でプレーが出来ました。

茨木と広野は今日までずうっとプレーを続けております。茨木では七寿会、木曜会、如水会、広野では赤タイ会、凌霜如水会には出来るだけ参加し、結局週に一度はどちらかでプレーしております。幸い元気で一八ホールは完全に廻りますがハーフ60を切ることが少くなりました。たゞ不思議なことに最近あとのハーフの方がスコアがよいのです。

◇梅田コマ四月公演は 花登ドラマの最新作『海鳴りやまず』を上演！

八一年四月の梅田コマ劇場は、〈ポートピア'81神戸博協賛・梅田コマ劇場開場二五周年記念公演〉として〈花登筐名作劇場・海鳴りやまず〉を上演する運びとなりました。

今日の貿易商社のルーツ〈鈴木商店〉物語 明治時代の神戸でささやかな砂糖小売業を営んでいた鈴木商店が、明治二七年、当主の死をきっかけに大きく生まれ変る——仕事から食事にいたるまで店主と小僧のわけへだてがない鈴木商店の家族主義の中で、鈴木商法を学んだ金子直吉、一度は、いつまでたっても下積みの奉公にいや気がさし、故郷の土佐に逃げ帰るが、鈴木ヨネに連れ戻される。当主岩次郎の死で、店をまかされた金子と柳田富士松の二人は、ヨネのために店を盛り立てることに苦心する。柳田が砂糖を、金子が樟脳を——若い二人の情熱が、貿易という新しい商法に花ひらく。

鈴木商店発展の歴史の中に、古き佳き時代の日本男子の大ロマンを見た 鈴木ヨネのために事業を拡大させることに全力をあげる金子の心には、たとえてみれば、あの無法松の吉岡未亡人に対する心情が似通っているのではなかろうか——作者花登筐氏はこう分析する。これは今や失われている日本人の男ならではの真情だ、とも。大恩を受けた一人の女性のために粉骨し事業を発展させる男、金子直吉こそ、理想の日本の男子像だ——。

ベスト・キャストでおくる鈴木商店一代記
月丘夢路（鈴木ヨネ） 藤岡琢也（金子直吉）
小島秀哉（柳田富士松） 田崎 潤（後藤新平）
岡崎友紀（鈴木千代子）予定 仲 真喜（高畑政一）
他に初音礼子、高田次郎、正司花江ほか

4月
梅田コマ劇場開場25周年記念
海なりやまず
花登 筐 脚本・演出

月丘夢路

藤岡琢也
小島秀哉／仲 真貴
高田次郎／初音礼子
喜味こいし／正司花江ほか
2日➡28日 11時半 4時
S4300円／A3000円
B1800円／C1000円
《3月10日前売開始》

俳句

ふる里

山本竹兜

水の澄む頃直ぐとなる早苗かな
句作りに日焼け田人も来るべし
山や川やふるさとは人涼うに
父母のなきふるさとの短夜や
短夜に向き合う三ツ尾神池寺と

七月廿八日法事で丹波へ帰る 三句

早稲の穂立ち嫋々としてふる里は
瓜畑にふるさと人と立話
袈裟のいはれ語りて僧の涼しげに
若雉を造化にかへす秋よき日
若雉を放つ錦の山に来て
雉翔ちて光りを添へる秋の山

柿の花 時雨

松田大介

柿の花に閑居を訪ひ得たり
椿の葉いよいよすがれそめにけり
この蔓とともに枯れゆくかまきりか
鳰走り沼の日和をくずしけり
濡縁に腰かけ時雨待つ心
炉屏風の相撲絵いたく古びけり
通天の橋かげりゆく聖一忌
枯るゝもの枯れて笠置の道嶮阻
風除けのほとんど火山灰を除けにけり

四季

伊予 田坂榎松（鉄平）

正月の川さらさらと鷺歩く
喜働会百寿会より賀状来る
朝風に一朶ゆるがす花満てり
春潮や映画も風呂もある船に
未だ生きよ生きよと風の涼しけれ
岩すゞし人より添へば尚涼し
方丈の万霊供養百日紅
川尻に渡り鳥など見て遊ぶ
祝ぎごとの焚火と見えて幕映ゆる
喜寿米寿重ね重ねて炬燵守

雁の列

柳田義一

雁の列乱すは端の一羽から
平家村もみじに浄土の篝火が
童子佛雪に輝く降るほどに
鷺の浮き床姫路の城そびえ
座禅して尾花うなづくほどの風
紅梅のこぼれて透明の雨となる
落葉嵐箒目爽やか寒山寺
寿齢順位なし落葉は裏向きに

俳句の味いどころ

柳田義一

風呂敷の唐草模様夏の海

わが手近かに散乱している蒐集の飛鳥瓦に触れては華麗を誇りし当時を忍びタンポを動かして手拓をつくすと一層鮮かに懐古の情の豊かさがまざ〳〵と浮彫されるのが妙である。

出来あがるこの拓本たるやまばゆくその曲線の強烈には目が眩むばかりである。しばしわが目をそらすとそこには夏の海に似た唐草風呂敷が浮んで見えて来た。脳裏に映るものは、はるばる中国から悪波浪に堪えて苦闘を続けて来朝の大和、唐提寺開祖、鑑眞和上の御身に想いが馳せる。天平の甍(いらか)から仏像、経典何百巻、仏教中心の資料をもたらせそれに各種工芸の技術者渡来こそはわが国の文化の偉大なる貢献開眼となったことが尊い。この句の観賞に依って作意に御共鳴下さらば幸……。